

0・1・2歳の“やりたい”探し②（園長つぶやき）

前回の、0・1・2歳児の子ども達の園庭遊びで見つけた場面を引き続き書きたいと思います。今回の場面は、自分の“やってみたい”を完結させるために、諦めずに最後まで一つのことに一生懸命チャレンジする子どもの場面です。

1歳児クラスの男の子。目の前に大きめの三輪車がありました。周りでは、先生に乗せてもらった子どもや、自分で乗ることが出来る2歳児の子どもがおり、自分でも乗って遊びたいと考えたのだと思います。三輪車をつかみ、乗るための挑戦が始まりました。何度か、足を持ちあげながら気づいたようで、タイヤに足を載せると乗りやすいことを発見！そこからは、サドルに乗るまではあっという間に出来るようになりました。



最後に、またがるために右足を反対側に出そうと一生懸命に足を動かしていましたが、そこだけは靴が三輪車に引っかかってしまい出来ない様子でしたので、そこだけはちょっと手伝いましたが、ほぼ一人で大きな三輪車に乗ることが出来た1歳児の男の子です。

でも、乗ってからが三輪車の楽しいところで、本人的には“動く”つもりだったようです。乗っても、進まないことに気づき、体を前後に揺らしながらなんとか前へ進もうとしていました。それでも動かないことに、きっと“なぜだ！”と考えを巡らせたのではないかと



思います。隣で乗っていた、2歳児の男の子の動く様子を“じーっ”と不思議そうに眺めていました。きっと次は、どうすれば前へ動くのか？を本人なりに考えて挑戦するのだと思います。1歳児という小さな子どもですが、すでに考えることが始まっているんですね。このような、一つひとつの積み重ねが大きくなってからの思考力・判断力等の考える力の基礎に繋がっていると感ずることが出来る場面でした。(R2・5・26)